

# 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

## 報告書資料 一般 - 09

学校名・団体名	川越市立山田小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	外国語活動及び外国語科の効果的な指導方法について

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1 研究の目的

平成30年度より2年間、川越市教育委員会から「外国語活動及び外国語科の効果的な指導方法等について」の研究指定を受け、外国語活動・外国語科のモデル授業を提案するための研究に取り組むこととなった。

本研究は、平成32年度から全面実施となる外国語活動及び外国語科について、効果的な指導方法について研究、授業実践を行い、市内の小学校教諭等に研究成果を広めることを目的としている。

今年度は全5回、6学級で研究授業を行い、最終回の2月には、川越市内32校の小学校教諭等に「児童が楽しみながら活動に参加する」外国語活動・外国語科の授業モデルを提案できるよう研究を進めてきた。

#### 2 研究主題 「外国語活動及び外国語科の効果的な指導方法について」

～先生方が自身を持って外国語活動の授業を行うために～

【目指す教師】指導方法が明確になり、自信をもって授業を行う

【目指す児童】楽しみながら活動し、学び合い、高め合う

本校ではこれまでも高学年の「外国語活動」で担任が ATE と協力して授業を進めてきた。しかし、新学習指導要領により、中学年では外国語活動、高学年では外国語科が実施されるとより多くの教員が外国語の授業を行うことになる。そこで、「指導方法の研究」に特化して取り組むことを決定し、本研究主題を設定した。

#### 3 研究組織

##### (1) 研究推進委員会

校長・教頭・研究推進委員長（教務主任）・研究主任（外国語活動主任）・各学年1名

##### (2) 専門部会…学習指導部（主に指導方法・指導案に係わること）

環境部（主に英語ルーム・校内環境整備に係わること）

##### (3) 学年・ブロック研究部会…授業実践・研究授業について計画・準備を進める。

#### 4 活動内容

##### (1) 専門部の取組

###### ① 学習指導部

ア 授業の始まり方、終わり方などのルーティーンをつくる。

イ HRT と AET の役割分担（AET との打ち合わせ）

ウ 学習指導案の形式

エ 学習支援ボラティアの活用の仕方

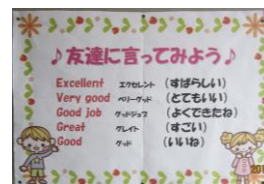
オ 英語ルームの活用の仕方（PC・TV・ホワイトボードの設置場所や活用）

###### ② 環境部

ア 掲示物を作成する（天気・あいさつ・曜日・月・数 等）

イ 単元毎に絵カード等のファイリングを進める。

ウ 3年生以上のクラスに日付（月・日・曜日）の黒板掲示を配布する。



## 研究主任による研修と校内研修

- ① 模擬授業
- ② ショート研修（月曜日放課後の職集後、5～15分）
  - ・ Classroom English, Teacher Talk, Chant, etc
- ③ ロング研修（木曜日の研修日、30分～1時間）
  - ・ 模擬授業、展開の仕方、部会等



## (2) 授業研究会及び講演会の実施

- ① 校内研修全体授業研究会（H30.5.31）
  - ・ 単元名 Unit3「He is famous. She is great.」
  - ・ 授業者 6年 福島修嗣教諭 AET Scottto Whittaker
  - ・ 指導者 川越市立教育センター  
指導員 吉田一彦 先生 指導主事 稲葉知己 先生
  - ・ グループワークによる研究協議会  
実際の授業を参観し、外国語活動（外国語科）についての疑問点等を率直に出し合う。



- ② 校内夏季研修・講演会（H30.8.21）  
「小学校における英語指導で大切なこと」  
講師 埼玉大学教育学部教授 及川賢先生



- ③ 校内研修ブロック別授業研究会（H30.11.8）
  - ・ 低学年 2年 鎌倉聖悟教諭 「色で遊ぼう What color？」  
指導者 川越市立教育センター 指導員 吉田一彦 先生
  - ・ 中学年 4年 吉岡李英子教諭 Unit5「Do you have a pen?」  
指導者 川越市立教育センター 指導主事 稲葉知己 先生

- ④ 校内研修全体授業研究会（H30.12.8）
  - ・ 単元名 Unit8「What would you like?」
  - ・ 授業者 5年 片塩俊一郎教諭 AET Scottto Whittaker
  - ・ 指導者 埼玉大学教育学部教授 及川賢先生



- ⑤ 川越市教育委員会指定学校研究・川越市学力向上研究委員会授業研究会
  - ・ 授業公開 3年 栗原苑美 教諭 Unit8「What's this?」  
6年 福島修嗣 教諭 Unit9「Junior High school life.」
  - ・ 指導講評及び講演会 「小学校の外国語指導で大切なこと」 埼玉大学教育学部教授 及川 賢 先生



## ⑥ 授業研究会後の授業者へのフィードバック

研究授業用のフィードバック用紙を作成し、授業を見る先生方が記入し、授業者に渡すようにした。研究協議以外にも自身の授業の細かい点について知ることができる機会となった。

## 3 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ショートやロングなどの可能な範囲での研修を継続することで、今までよりも自信を持って授業に臨めるようになったことが、教師の意識調査にも表れていた。また、授業の基本の流れの確認や統一を図ることができた。
- 英語ルームや各学級内の掲示物を作成、デジタル教材活用のための機器の整備等が進み、学習環境が整ってきている。
- クラスルームイングリッシュをしようとする意識が高まり、授業の中に取り入れながら担任主導で授業を進めるという意識が更に高まった。また、AETや英語ボランティアの活用方法が分かってきた。
- ICT、AET、ボランティアの活用、教材の工夫により、テンポのよい授業展開ができた。児童も抵抗なく授業に参加できるようになってきており、AETや担任、友達との交流を楽しんでいる様子が見られた。

### (2) 課題

- AETとの打ち合わせの持ち方・時間の確保
- 正しい発音で話しているか自信が持てず、不安を抱えている教員もいる。さらに、英語を積極的に使っていこうとする姿勢で臨めるよう、研修を重ねたい。
- 児童が苦手意識を持たず、主体的に取り組むための指導方法の工夫について、研究を深めたい。
- 書くことの指導について、授業の中に効果的・効率的に組み込んでいく工夫をしていきたい。